

[年度] 平成20年度和歌山県農林水産総合技術センター研究成果情報

[成果情報名] 梅種子給与が採卵鶏の生産性や鶏卵品質に与える影響

[要約]

梅種子を採卵鶏飼料の塩分素材として活用し、採卵鶏への梅種子給与が採卵鶏の生産性や鶏卵品質に与える影響を調査した。梅種子給与により採卵鶏の生産性は低下せず、採卵鶏飼料の塩分素材として梅種子が利用可能であることが確認された。

[キーワード] 採卵鶏、未利用資源、梅種子、生産性

[担当機関名] 畜産試験場養鶏研究所

[連絡先] 0738-54-0144

[部会名] 畜産部会

[分類] 研究

[背景・ねらい]

和歌山県の特産品であるウメは、古来より健康食品として梅干や梅酒などに加工され流通している。しかし、梅干加工時に発生する梅種子は塩分濃度が高いためリサイクルが難しく、現在はほとんどが産業廃棄物として処理されている。一方、梅種子には抗酸化性の強いポリフェノールが含まれており、採卵鶏飼料へ添加することで生産性の向上や高品質卵の生産を期待することができる。そこで、本研究は、採卵鶏への梅種子給与技術の確立を目的として、採卵鶏への梅種子給与が産卵成績や卵質、鶏卵中ビタミンE濃度に与える影響を調査・検討した。

[成果の内容・特徴]

トウモロコシを主体とする基礎飼料を給与した対照区、対照区から塩分を除き梅種子乾燥粉碎物を5%添加した梅種子区、対照区および梅種子区に トコフェロールを0.01%添加したVE区および梅+VE区の計4区を設け、生産性や一般卵質、鶏卵中ビタミンE濃度を測定した。

- 1．梅種子添加により平均卵重が増加し、産卵率が低下する傾向が認められたが、日産卵量に有意な差は認められなかった（図1，2）。
- 2．飼料摂取量、飼料要求率に有意な差は認められなかった。
- 3．ハウユニット、卵殻厚、卵黄色に有意な差は認められなかった。
- 4．飼料中のビタミンE濃度が高い状況では、鶏卵中ビタミンE濃度が上昇する傾向が認められた（図3）。

[成果の活用面・留意点]

採卵鶏は飼料中の塩分濃度が0.7%を超えると中毒による産卵低下などを引き起こすため（日本飼養標準・家禽2004年度版）、塩分濃度に十分留意する必要がある。

[具体的データ]

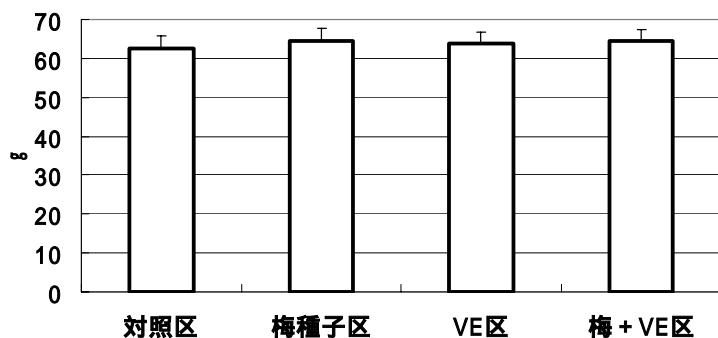


図1 平均卵重

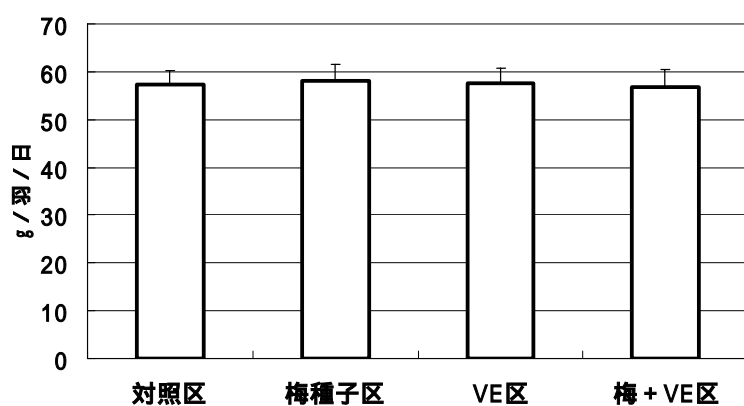


図2 日産卵量

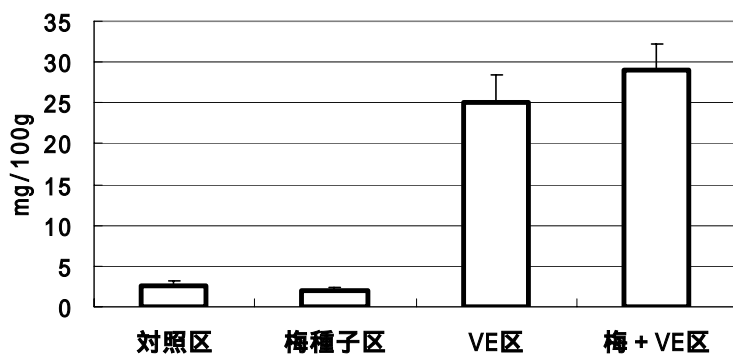


図3 卵黄中ビタミンE濃度

[その他]

研究課題名：梅種子給与が採卵鶏の生産性や鶏卵品質に与える影響

予算区分：県単

研究期間：平成19～21年

研究担当者：筒井 視有（紀州みなべ・田辺梅干協同組合と共同研究）

発表論文等：平成20年度和歌山県家畜保健衛生・畜産技術検討会にて発表

日本家禽学会2009年度春季大会にて発表予定

